

「いわんや悪人をや」

藤元正樹師述

仏教では、人間の行為に、善・悪・無記とあることは先程言いましたが、無記という言葉は、読んで字の如く、記録しないという事です。記憶に残らないという事です。閻魔さんの帳面に残らない事です。ところで死んでから三十五日目に閻魔さんの所に着くんですが、そこでは閻魔さんが帳面をもって待っているんです。そこで、おまえはこんな事やあんな事をしたではないかというんです。そんな事、していませんといったって、ちゃんとわかっているんです。何故かという、閻魔さんにはスパイがいるんです。スパイというのはお地藏さんです。お地藏さんというのは辻々にたっているでしょう。だいたい、真宗の一番古いお寺は辻寺といまして、村と村との道の辻に建っている。そしてお地藏さんというの、村のはずれで人のいない所にあります。だから、人のいない所で人間は悪い事するでしょう。それをちゃんと見ているのがお地藏さんです。そしてそれをビデオにとり、閻魔さんの所へ送ってあるんです。だから、お地藏さんには油断できないんです。そこで、良い事をしているか、悪い事しているかを帳面につけているんです。何もしないで知らん顔していった者は何にもついていません。手をあわした者、小便した者はちゃんとついていて、ただ、何にもしないで知らん顔していった者には何にもついていません。それを無記という

んです。記録していない事、覚えのない事、それを無記というんです。

善と悪は、仏教ではともに二世に亘るといふんです。二世に亘るものを仏教で善とか悪とかいふんです。それは何故かという、普通、善いとか悪いとかいう場合は、人間と人間の間の値うちの問題で、倫理の問題なんです。一般的に言えば、倫理とか道徳とかいうのはみんなそれなんです。道義、或いは道徳とかいう場合は、人と人との関係の上で善とか悪とかいふんです。善とか悪とかいふのは、みんなそれなんです。だから、おばあさんにとって、善とか悪とかは自分で決めたって駄目なんです。人が決めるんです。嫁さんにとっておばあさんは悪い人かもしれませんが、孫にとつてはいい人かもしれません。そうでしょう。同じ人であっても、善人とか悪人とかは、人間の間の貸し借り勘定で決まるんです。善とか悪とかいふのは、自分にとって益になる人、都合のいい人、損になる人を善とか悪とかいっているんです。ただし、それはこの世のことだけでなく二世にわたる、これが仏教でいう善悪です。いわゆる

人間の関係の中で道徳・倫理といわれる中の善悪と違って、仏教における善悪は二世にわたるといふんです。これは例えば、現在と未来の二世にわたる二つの利益、現世利益とあの世の利益、この二つの利益を



もって真宗では功德というんです。念仏は現当二益といふんです。それは二世にわたるといふので、二世、つまりこの世だけでなく、他の世にも順益になるものを本当の善といい、二世にわたって違損するものを悪といふんです。二世にわたるといふことは、簡単に言えば宗教における善悪であつて、道徳としての善悪とはちよつと違ふのです。二世とは、あの世があるとかないとか言っているのでもないですよ。二世にわたるとは、善の証し、悪の証しということをしていっているんです。善は単に善でなしに、善をして善たらしめておるもの、悪をして悪たらしめておる性分、性といつたら、普通私達の言葉でいうと性根、根。さきほど宿根草といったでしょう。花でも根があれば、花は枯れても根は残る。根が生きていれば、花はなくなつても来年またでてきます。二世にわたるそうでしょう。根が育つていけば、自らまた来年花となつて再び生まれてくる。いくらきれいな花でも花は一年しかもちません。春に咲いたら秋には枯れます。だけど根は生きています。この根、これを性といふんです。あなた方も性分といふものかおるでしょう。性根といふものは見えなくても、変わらないものです。くるくる変わるものとは違います。凡夫の性根は変わりません。人間の心とか、日常の生活は変わるけれども、性根は変わりません。問題は性根なんです。何故かという、本当の善・悪といふものは、二世にわたるものなんです。もつと簡潔にいつたら、一つのいのちが花なら花でもいい、その花が育つためには、花の種を植えて、根がでて、芽がでて、茎がでて、葉になつて、花が咲くでしょう。そしてどうなるかという、また種ができるでしょう。柿の種を植えて、桃の種ができるということはない

でしょう。柿の種には柿の種ができるでしょう。それが柿の性です。だから、同じ善とか悪とかいっても、仏教でいう場合は善の性であり、悪の性であるんです。だから、親鸞聖人は、厳密には、本当の善人という場合には、善性人といっているんです。単なる善人とか悪人とかでなく、善性人、悪性人と。善性という事は、時代とか状況とかは関係ないんです。例えば、人間を、倫理的・道徳的に善とか悪とかいう場合は、その時代によって値うちが違ってきます。時代時代でかわります。それはその時代の権力者、或はその時代を支配する人の考え方で決まるんです。善とか悪とか、人間の価値観とかいうものは、およそその時代の支配者の考え方で決めてしまっているんです。ところが、仏教が二世にわたるといふときは、そういう時代に よって変わる善とか悪とかではない。善をして善たらしめるものを善と呼び、悪をして悪たらしめるものを悪と呼んでいるのです。少し難しいでしょうが、つまり、本当の意味で、人間にとって利益なるもの、違損するものは、二世にわたる善であり、悪であるというんです。その二世にわたるといふ事で、性という言い方をします。だから、善性人、悪性人というのは、戦時中に善とせられたことと、現在善とせられることは同じかといったら、そうはいかんです。その時代・時代によって、善とか悪の価値は変わります。だけれども、善そのもの悪そのものは変わらないんです。その人のもっている性としての善悪を、仏教では善とか悪とか呼んでいるのです。例えば、昔皆さんが知っているのに、さるかに合戦というのがあって、おにぎりをとったのがさる、かには柿の種をとりました。さるは今の順益、今自分にとって得になる方をとったのです。かにがとった

のは違損しているのです。今は損をしているんです。だが、結果的にどちらが得したのかというのがあります。今はおにぎりの方がいいが、二世にわたって本当の意味で得したのは、柿の種をとったかの方でしょう。だから、二世にわたるといふのはそういう意味なんです。今、私達のする事で、本当の意味で善とか悪とか決定する場合は、二世にわたるといふ事があるんです。だから、仏教で善とか悪とかいっているのは、今の世においていっているのではない。価値基準が違うんです。今は、ある意味でかみにみたくに損かもしれないけれど、それが本当の意味での善になるか、悪になるかという事です。そういう価値基準を基本においた上で、初めて「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや」といふ言葉がでてくるんです。これでようやく、善・悪という事の意味の話のきっかけができたんです。これからは、善人よりも悪人が往生するのがあたりまえという事が、何故いえるのが問題です。御苦勞様でした。ようやく話の糸口がでてきたんです。でてきたとたんに、時間がまいました。

(一九八七年 西宝寺にて)



チプロ運動(森林保護運動)

この木に手をかける前に私に手をかけなさい、この木は、私が生きるためになくてはならないもので、私の命よりも大切なのですから

チプロ運動とは、インドの巨大ダム建設工事(ナルマダ深谷、3000のダムを作り100の村、十万人の先住民の村を水に沈める開発)のため破壊される「命の森」(彼らは森を命より大切なものであることを知っている：森がないと生きられない)を守るため、現地の女性たちが中心となって木に抱きつき、木を切らせないと、非暴力思想に裏打ちされた運動のことを言う。

ODA(途上国支援)の名のもとに行われたこの巨大ダム工事は、先進各国が請け負い、結局途上国からお金を吸い上げる似非(エセ)援助であった。木に抱きつき木を守るうとした現地の人々には人権が与えられておらず、200人以上が木と共に切られ死んでいったという。

これには日本のODA(途上国支援)が大きく関与していて、国際的な批判で世界銀行は融資を中止したが、工事は今なお続いている。

森の星HPより

チプコのメッセージ

1992.5.3 モントリオール地球環境
国際会議インド代表チプコ運動の父
「スンドラルルバフグナ氏」

私たちはチプコと呼ばれている

チプコとはインド語で「抱きつく」という意味

私たちは木が切られないように木に抱きつく

木と共に切られてすでに2000人の仲間が死んだ

今、あなたがたの国からたくさんの人が来て、たくさんの木を切り、

たくさんダムを作るつもり

ダムが出来ると森が沈み、私たちは生きていけない

このようなことが行われなために、私たち十万人のチプコは

水に沈む覚悟をした

よく聞いて欲しい

私たちは決して貧しくない、私たちは豊かだ

私たちは何も欲しくない、ダムも電気もお金も

あなた方は経済という宗教に取り憑かれてしまった

神様はお金、儀式は開発、生け贄は地球

神様からの贈り物は飢えと公害と戦争

開発は自然を殺し、一時の富をもたらずが

永遠の生活と幸せを失う

私たちは開発ではなく、幸せを求めている

小さな土地と少しの水、少しの食べ物で十分なのだ

幸せはお城の中でなく、自然の中にある

悩みは欲の中にあり、幸せとは欲から解放されること

あなた方はどうして、その当たり前のことを忘れてしまったのか？

あなた方はどう行へのか？

Yes to life. No to death
(生にイエスを！ 死にはノーを！)



七組女性会報告

2010.8.25

於 明覚寺

ひらがな手縫い九条の活動を始めた姫路の女性グループ(代表葦妙子さん)にきていただきました。戦後六十五年日本の若者を戦争へ送らなくてすんだのは、まさにこの九条があつたから。それをたくさんの人に伝えたい。なぜなら憲法が変えられようとしているから！全国に数千の九条の会ができていのに、マスコミでは全く流さない。私たちは何も知らされず、翻弄されている。元米兵のアレン・ネルソンさん、アツシユ・ウールソンさんが九条を守るのはあなたたちだけだと日本を回った。九条は世界の宝。戦争は一部の人利益を得るビジネス。犠牲者は兵士とともに名もなき人々。今日日本は戦争へと向き始めています。もう二度と戦争はしないと誓った六十五年前の決意を前に、私たちがこの手でできること。こどもも読めるやさしいひらがなの九条を伝えること。たくさん女性の手縫いに祈りをこめて・・・。

憲法九条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

二項 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

にほんこくみんは、せいぎとちつじよをきちようとすべくさいへいわをせいじつにききゆうし、こつけんのはつどうたるせんそうと、ぶりよくによるいかくまたはぶりよくのこうしは、こくさいふんそうをかいけつするしゅだんとしては、えいきゆうにこれをほうきする。

二項 ぜんこうのもくてきをたつするため、りくかいくうぐんそのたのせんりよくは、これをほじしない。くにのこうせんけんは、これをみとめない。

みんなでひらがな九条をちくちく手縫い。敷物にしたのは私たちがその上に乗っているから・・・。

